

# 「地域医療系総合医」を北の大地で目指そう!



地域を「みる(診る・看る・観る)」ことができる 総合診療医を養成する

指導医からのメッセージ (肩書・役職は2023年4月現在)

院長 阿部昌彦



訪問診療、施設回診、巡回診療、離島応援、地域連携室と共に多職種での前方連携、後方連携。当院では多くの体験と振り返り、気づき、学びが可能です。 また、医学的には日々のcommon diseaseの振り返りや、時にドクターGの臨床推論

また、医学的には日々のcommon diseaseの振り返りや、時にトクダーGの臨床推論が必要な症例の検討会、ネットでの早朝勉強会など組織での学習と知識の共有、アップデートを行い集団知を高めることを目標とします。

(厳しくもある)恵まれた自然環境での勤務、北海道職員としての安定した処遇、 福利厚生、医師同士の協調によるワークライフバランスの良さも魅力です。

日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本専門医機構認定総合診療領域特任指導医 日本病院総合診療医学会 特任指導医 日本循環器病学会 循環器専門医・指導医 旭川医科大学臨床指導教授 (前)自治医科大学臨床教授(地域担当)



## 急性期医療から回復期医療、在宅医療まで幅広いセッティングを経験



地域密着型病院であり、救急や病棟での診療をはじめとした急性 期病院の病院総合医としての研修と、外来や在宅医療を中心に、 地域のかかりつけ医としての家庭医療研修をバランスよく行えま す。また、離島診療支援も行うことがあるなど(実地支援・遠隔 診療支援)、様々なセッティングを経験することが可能です。



## 地域密着型の多職種協働(IPW)が充実



病院内において多職種連携は活発で、とくに入院患者を中心に入退院支援を通じた連携は充実しています。また、院外の多職種とも距離感が近いことも特長で、相談しやすい関係性が構築されており、これからの地域包括ケアに必要な、地域における多職種協働も学ぶことが可能です。



### 地域の健康増進・予防医療に貢献



予防接種や健康診断、学校医、介護保険認定審査などの地域における様々な事業に協力する他、健康出前講座やフレイル外来、キッズセミナーをはじめ、病院独自の取組を行っており、健康増進、予防医療など地域に貢献しており、地域志向型ケアを実践することができます。



### 初期研修明けからでも診療しやすい環境



地域センター病院として整備されていることから、CTやMRI、内視鏡、超音波装置、自院における検体検査など、地域にある医療機関としては比較的医療機器が揃っています。そのため、初期研修明けからでもギャップが少なく、診療しやすい環境にあります。



- ① 子供から大人までの健康問題に対して、継続的な対応をすることができる
- ② 予防医療から、急性期、回復期、在宅医療、緩和ケアなど幅広い対応ができる
- ③ 地域特有の健康課題を抽出し、それに対するアプローチを考え行動することができる
- ④ 地域包括ケアにおける医療機関・医師としての役割を理解し、実践することができる
- ⑤ 医師として生涯学習に取り組むことができる
- ⑥ 医学生や研修医など、後進の育成に取り組むことができる

# 副院長 佐々尾航 (プログラム責任者)



「総合診療医」は多くの場面で求められています。どんな病気でも診ることができる 医師とイメージされがちですが、決してスーパーマンになる必要はありません。自分 の持てる能力を働く場所に応じて活かすこと、周りの多職種の協力も得ながら働くこ と、患者さんの社会背景などにも目を向けること、地域の健康増進に寄与することが できれば十分、イメージはアンパンマンです。当院は病院総合診療と家庭医療をとも に経験でき、そこを拠点に連携施設の研修と合わせて、自身が志向する研修が可能で、 これから特に求められる「地域医療系総合医」を目指すにはとても良い環境です。

日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 同学会北海道ブロック支部副支部長 日本内科学会 総合内科専門医・指導医 日本病院総合診療医学会 特任指導医 日本消化器病学会消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 自治医科大学臨床講師(地域担当) 旭川医科大学臨床指導准教授



### 家庭医療・病院総合診療 専攻医の志向に応じたプログラムが可能



「家庭医療」「病院総合診療」のセッティングが可能であり、総合診療専門研修に加えて、サブスペシャルティとして「新・家庭医療」と「病院総合診療」のプログラムも用意しています。 基幹施設である当院をどの研修領域にするかによって、連携施設と合わせて、志向に応じたプログラムを組むことができます。



### 診療と学びのバランスが取れた環境



外来・病棟ともにcommon diseaseを中心に十分あります。日中はほどよく業務量はありますが、ほぼ定時に終了することができ、症例を振り返ったり、自己研鑽する時間は十分に確保できます。 医局勉強会やインターネットでの学習会に参加するなど、学習の機会も設けています。



# 主治医チーム制+夜間・休日当番制



日中は主治医として担当しながら、複数の医師でチームを組むことで情報共有しつつ、また指導医も共に回診に回るなど、助言を得やすい環境です、また、時間外は当直医や待機医師に任せ休むことが可能で、オンとオフがはっきりしています。週末は月2回完全オフなど、休みには北海道観光をする道外からの専攻医もいます。



## 初期研修医や学生への教育も担当



初期研修医の地域医療研修や、医学生の地域医療実習を多く受け入れています。そのため専攻医にもその教育も担当していただきます。 後進に教えることで、自身の知識の定着にもつながっていきます。

# さまざまな診療場面や学習の機会があります

1週間の中で病棟診療や救急対応、外来診療、訪問診療、宿直などの様々なセッティングの診療を行います。 朝のインターネットでの学習会や医局の勉強会で学習の機会があるほか、研修医・学生教育も行います。 オンとオフがはっきりしており、自己研鑽の時間も、休養の時間も時間外には十分に確保できます。



- \*研修領域に応じて変更になります
- \*専攻医の人数に応じて異なります



病棟はチームに分かれています。 各チームで朝夕の回診を行います。 チーム内で情報共有し、お互いに 意見を出し合うなど、補完しなが ら診療にあたります。



テレビ会議を用いた札幌医大主催のレクチャーや症例共有会です。 全国600近い施設が参加します。 ときには発表者になることもあります。



研修医がいる期間は、研修医向けのレクチャーを行っています。 専攻医もレクチャーを担当するほか、 他の医師のものも聴講して学べます。

		月			火		水		木		金	週末
7:30		研修医レクチャー			,	インターネッ	ト学	習会 (自主参加)	1	研修医レクチャー	-	
8:15	1	病棟チーム朝回				チーム朝回	診					
8:30	指導医との入院患者に関するディスカッション											
9:00				-	-般外来		一般外来		予約外来		病棟業務など	(病棟回診)
13:00	;	救急当番	:									月1回程度の当 番の時のみ全入
14:00	, ;	病棟当番	病棟当番	<i>)</i> /// (5)	・訪問診療		病棟業務		一般外来			院患者の回診を 担当します。
15:30	1			2000日	・初内砂烷	多	<b>職種カンファ</b>	,			<u></u>	また月1回の待 機(日曜日の夕
夕方	病棟チーム夕回記			回診					方に羽幌に戻る)があります。			
16:30	逐	E局勉強 <mark>会</mark>	슩									当番や待機以外は、原則フリー
17:00						•			宿直			です。

救急車の対応をします。 病棟での患者対応も 行います。



医局内で症例検討、 日々の疑問の学習の発表 学会発表の予行などを 行います。



病院から離れた無医地区 で巡回診療をします。 施設や在宅の方の 訪問診療も行います。 外来は、 週1コマの予約外来 週3コマの予約外外来 程度を行います。

入院患者について、 院内の多職種でカンファ を行い、診療内容の協議、 退院後の方向性を踏まえ 対策を出し合います。 宿直明けは、業務の配慮をします 午後は業務のdutyがないようにしています \*有給休暇を取得して休むことが可能です (医師の人数により業務をお願いすることがあります)

宿直は、平均で1回1~2人程度の患者対応で、 想像よりは過度な負担ではありません。 救急車は24時間で平均1台以下で、 来ない宿直の方が多くなっています。 (宿直は宿直手当のほか、患者対応に応じて時間外手当を支給)

時間外は当直医に任せてやすむことができます。当直の他、当直医が対応できない場合に呼ばれる待機が週1回ありますが、呼ばれることはあまりありません。





ほぼ時間内に業務を終えることができます。 業務に慣れると、日中にも時間ができます。 適宜空いた時間で、院長による身体診察指導や 検査手技の指導などを受けることができます。 ポートフォリオ整理や学習など自己研鑽の時間も 十分にあります。

月に1~3名初期研修医や学生が来院するため、 その指導にあたってもらいます。

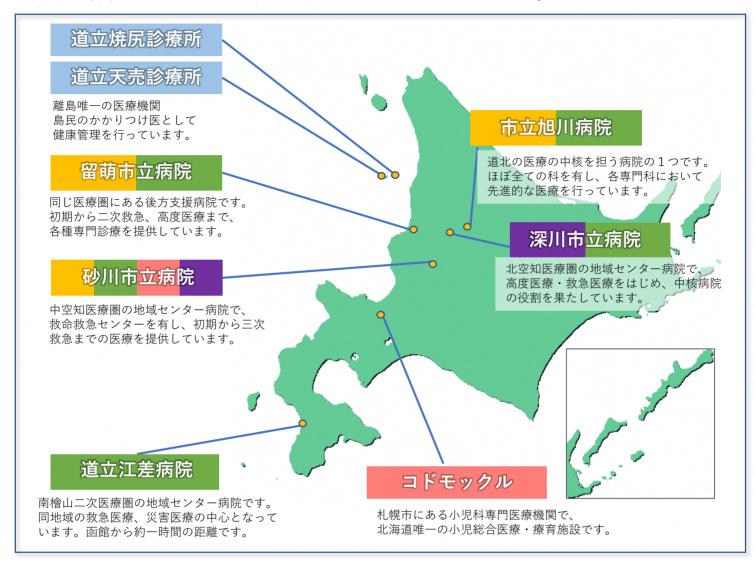




「UpToDate」や「DynaMed」を 病院で契約しており使用できます

# 北海道内の多様な医療機関で研修可能です

当プログラムには、特色ある8ヶ所の連携施設があります。 専攻医の将来のキャリアパスや希望を踏まえてローテートしていきます。



	医療機関名	所在地	総診 I 家庭 I	総診Ⅱ 家庭Ⅱ	内科	小児科	救急	病院 総合
基幹施設	北海道立羽幌病院	羽幌町			$\bigcirc$			
	留萌市立病院	留萌市			$\bigcirc$			
	砂川市立病院	砂川市			$\bigcirc$		$\bigcirc$	
	深川市立病院	深川市						
`亩+隹+た=ル	市立旭川病院	旭川市			$\bigcirc$			
連携施設	北海道立江差病院	江差町						
	北海道立天売診療所	羽幌町	$\bigcirc$					
	北海道立焼尻診療所	羽幌町						
	コドモックル	札幌市				$\bigcirc$		

\*上記施設は2023年4月現在で、施設は毎年5月の更新申請時に追加申請を行います。

# 家庭医療志向・病院総合診療志向など希望にあった

道立羽幌病院で「総合診療」専門研修を行う場合は、以下のようなキャリアパスが考えられます 多様性のある研修や働き方が可能で、自分の志向や希望に合った選択が可能です

\*他院で総合診療専門研修を修了した場合でもほぼ同様ですが、研修の年数等が変わりますのでご相談ください

新 家庭医 サブスペシ 療 ヤ ル 病院総合診療 テ 1 研 (+1~2年 総 合

\*グレー部分は羽幌病院で研修や勤務できる部分です

### 家庭医療志向の場合

#### 「新・家庭医療専門研修 |

(日本プライマリ・ケア連合学会による認定)

総合診療専門研修に加えて1年間の「家庭医療 | | または 「家庭医療 II | の研修を行うことにより認められます。

- \*研修施設や期間について細則があります。 総合診療研修開始時に研修の申請が必要です。
- \*「新・家庭医療」と「病院総合診療」の同時研修は可能です

### 病院総合診療志向の場合

#### 「病院総合診療専門研修|

(日本病院総合診療医学会による認定)

総合診療専門研修後に認定施設での一定期間の 研修を行うことで認められます。

総合診療専門研修期間中の学会認定施設研修期間

1年間の場合:追加2年 2年間の場合:追加1年

道立羽幌病院か砂川市立病院の研修となります 総合診療研修最終年度に次年度からの研修を申請

初 診 療

## 羽幌病院 スタッフDr

#### 【興味の領域】

- 緩和ケア
- ・リハビリ
- 感染症
- 医学教育
- 医療経営
- 公衆衛生等

# 地域で実践&ステップアップの場合

#### 羽幌病院のスタッフ(&興味の領域での研修)

もしこの地域での医療の継続に興味があれば、

研修修了後、羽幌病院スタッフとして残留できます。 後輩となる専攻医の指導にもあたります。

定期的な再研修を受けたい場合、北海道職員として 公務員の身分を継続しながら、希望する領域の研修 のため他の医療機関等に行くことができます。

(この制度には定員や期間などの条件があります)

基本領域 (3年)

専門

研

## 内科

基本領域 (1~2年)

# 内科とのダブルボードを目指す場合

#### 「内科」専門研修

総合診療と内科は親和性のある基本領域であり、 ダブルボード(両方の資格を保有する)の際に、 研修期間の短縮などの配慮がされます。 総合診療専門研修中の研修内容によって、 研修期間は1年から2年となります。 内科研修プログラムのある施設に勤務となります。 当院でも勤務を希望する場合は、連携施設として 当院が登録されているプログラム所属で可能です。

\*総合診療の専門研修だけでももちろんかまいません。 当院以外の医療機関でも、研修中に学んだ知識を活かして活躍できます。

期 研 修

# 研修を行うことができます

研修ローテーション例 \*基本領域である「総合診療」のみの場合は、1年次から3年次までが該当部分

### 家庭医療志向の場合(4年間) 総合診療専門研修と連動して研修し合わせて4年

1年次	内科 (12ヶ月)						
2年次		総合診療/家庭医療 I (12ヶ月)					
3年次	救急(3ヶ月)	小児科(3ヶ月)	総合診療/家庭	医療Ⅱ(6ヶ月)			
4 年次	家庭医療   (12	<b>!ケ月</b> ) 「総合診療   」と「家 「総合診療(家庭医療	  R庭医療 」で合計18ヶ月以上か        と「総合診療(家庭医療 	つ同一施設で12ヶ月連続研修 ) II」で合計24ヶ月が必要			

	1年次	2年次	3年次	4 年次
例①	<b>道立羽幌病院</b> (内科) (総診   /家庭   )		<b>砂川市立病院 道立羽幌病院</b> (救) (小) (総診Ⅱ) (家庭医療Ⅰ)	
例②	<mark>砂川市立病院</mark> (救) <mark>(小)</mark> (総診Ⅱ)	<b>道立羽幌病院</b> (内科)	<b>道立羽</b> (総合診療 I <i>,</i>	100.1010
例3	市立旭川病院 (内科)	砂川市立 留萌市立 (救)(小)(総診川)	道立羽幌病障 (総合診療 I /家庭[	

例①:羽幌病院で内科や総合診療の基本を身に付け、総合病院で実践、再度羽幌へ戻ります(推奨)

例②:同一施設が3年連続になりますが、継続した医療を学ぶことができます。

例③:最低限の条件を満たしつつ、4年次では6カ月間の自由な選択研修を選択することができます。

## 病院総合診療志向の場合(4~5年間)総合診療専門研修をベースに病院総合診療専門研修1~2年が追加

1年次	内科 (12ヶ月)					
2年次	総合診療   (12ヶ月)					
3年次	救急(3ヶ月)	小児科(3ヶ月)	総合診療Ⅱ (12ヶ月)			
4 年次	病院総合診療(12ヶ月)					

	1 年次	2年次	3年次	4 年次
例①	<b>道立羽</b>	<b>幌病院</b>	<mark>砂川市立病院</mark>	<b>道立羽幌病院</b>
	(内科)	(総合診療 I )	(救) <mark>(小)</mark> (総診Ⅱ)	(病院総合診療)
例②	<b>道立羽幌</b>	<b>病院</b>	<b>市立病院</b>	<b>道立羽幌病院</b>
	(内科)	(総診 I )(救)(小)	(総合診療    )	(病院総合診療)

研修施設は、道立羽幌病院と砂川市立病院となっており、この2カ所での研修の場合4年間となります例①:総合診療 | が長めの総合診療専門研修 例②:総合診療 || が長めの総合診療専門研修

# 内科とのダブルボードを目指す場合(総合診療3年+追加1~2年間)

総合診療専門研修期間中の「内科」12ヶ月は「内科」研修とみなされ、12ヶ月の研修が免除となります。 また、「総合診療Ⅱ」の期間が12ヶ月あり、内科指導医がいた場合など諸条件を満たした場合は研修期間 とみなされ、さらに12ヶ月免除となります。そのため、追加の内科研修は所定の3年間から上記を引いた 年数となります。ダブルボードの希望がある場合はローテーションを配慮しますのでお知らせください。

# 他の専門研修後のダブルボード研修も可能

ほかの病院で「総合診療」<u>以外</u>の基本領域の専門研修を修了した後の方でも、 当院の有するプログラムに入ることができるほか、スタッフとしても歓迎しております

新 家庭医 専門 ブ ス 研 他 ペ シ の基 初 ヤ ル テ 期 1 基本領域 病院総合診療 研 研 (2~3年) 修 基本領域

(3年)

### 総合診療とのダブルボードを目指す場合

#### 「総合診療」専門研修

内科および救急からのダブルボードについては、 研修期間が内科では1~2年、救急で2年に短縮となります。 それ以外では正規の3年で取得することができます。 \*並行してサブスペシャルティ領域の研修も可能です。

(以下の新・家庭医療および病院総合診療の研修) (その場合は年数が異なります)

### 家庭医療志向の場合

#### 総合診療専門研修+新・家庭医療専門研修

(日本プライマリ・ケア連合学会による認定) 総合診療とのダブルボードを目指す時に、 新・家庭医療専門研修と連動して研修することが可能です。 研修期間は総合診療専門研修3年+1年で計4年です。 内科からのダブルボードの場合は、内科12ヶ月分が 短縮になります(新・家庭医療専門研修は3年で修了)。

\*「新・家庭医療」と「病院総合診療」の同時研修は可能です

## 病院総合診療志向の場合

#### 病院総合診療専門研修(+総合診療専門研修)

|別版日的源寺| JWIIP(下版日的源寺| JWIIP (日本病院総合診療医学会による認定)

総合診療等の基本領域専門研修後に認定施設での一定期間 の研修を行うことで認められます。

専門研修期間中の学会認定施設研修期間

ない場合 : 3年 1年間の場合:2年 2年間の場合:1年

道立羽幌病院(希望により一部砂川市立病院)で研修します。

総合診療専門研修と並行して研修が可能です。

# 羽幌病院 スタッフDr

【興味の領域】

- ・緩和ケア
- ・リハビリ
- 感染症
- 医学教育
- 医療経営
- ・公衆衛生等

# 地域で実践&ステップアップの場合

#### 羽幌病院のスタッフ(&興味の領域での研修)

もしこの地域での医療の継続に興味があれば、 研修修了後、羽幌病院スタッフとして残留できます。 後輩となる専攻医の指導にもあたります。 定期的な再列修を受けたい場合、北海道職員として

公務員の身分を継続しながら、希望する領域の研修 のため他の医療機関等に行くことができます。

(この制度には定員や期間などの条件があります)

専門医制度以前の方の場合、新・家庭医療専門研修のみを選択できます

#### ここでは「内科」専門研修を終えた後で、ダブルボードを希望する場合の流れをお示しします。

### 総合診療とのダブルボードを目指す場合(1~2年間)

内科専門研修後の場合、総合診療専門研修で必要な「内科 | 12ヶ月が免除となります。

1年次	総合診療   /家庭医療   (12ヶ月)					
2 年次	救急(3ヶ月)	小児科(3ヶ月)	総合診療 II /家庭医療 II (6ヶ月)			

また、内科専門研修期間のうち12ヶ月を「内科」と「総合診療Ⅱ」の両方の認定施設で研修を行った場合は、 さらに12ヶ月免除され、1年間のみの総合診療専門研修となります。

1年次 総合診療 | (6ヶ月) 救急(3ヶ月) 小児科(3ヶ月)

## 家庭医療志向の場合(3年間) 総合診療専門研修をベースに新・家庭医療専門研修1年が追加

上記の総合診療専門研修修了後に1年間道立羽幌病院での「家庭医療」」研修を行います。

3年次

## 道立羽幌病院:家庭医療 I (12ヶ月)

\*総合診療専門研修を1年で終わる場合は、「家庭医療ⅡⅠの分の研修が1年必要になります

# 病院総合診療志向の場合(1~3年間)

総合診療専門研修をベースに病院総合診療専門研修1年が追加 病院総合診療専門研修単独でもよい

基本領域専門研修間中の日本病院総合診療医学会認定施設在籍年数が最大24ヶ月免除されます。 その研修期間に応じて1~3年間道立羽幌病院(または希望により一部砂川市立病院)で研修します。 総合診療専門研修と並行して研修することも可能です。

1~3年次

道立羽幌病院:病院総合診療(12~36ヶ月)

### 地域で実践&ステップアップの場合

#### 【道立羽幌病院フェローシップ制度】

道立羽幌病院のスタッフとなった場合、希望があれば定期的な再研修制度を活用できます。 羽幌病院で得られないスキルを学ぶために、道職員の身分を継続したままで、他の医療機関等に 一定期間研修に行き、その成果を羽幌病院に還元いただく制度です。

○3年制:2年間の道立羽幌病院勤務を義務とし、1年間の研修等を認めるもの

	1年目	2年目	3年目
例	道立羽	幌病院	研修

○5年制:3年間の道立羽幌病院勤務を義務とし、2年間の研修等を認めるもの

	1年目	2年目	3年目	4 年目	5 年目
例	道立羽	幌病院	研	修	道立羽幌病院

- \*この制度は、定員・研修先などに制約があります。
- \*研修期間中も道立羽幌病院のスタッフであることから、定期的な研修成果の報告をお願いするほか、 道立羽幌病院における勤務等が入る場合もあります。

# 北海道の中でも「地域医療」が学べるところです



山﨑 孝明 医師

1年目:内科(道立羽幌病院)

2年目:総合診療Ⅰ(道立羽幌病院)

3年目:総合診療Ⅱ・小児科・救急(砂川市立病院)

人よりも病気を診るイメージの臓器別専門医よりも、町医者に憧れ、より幅広く人として患者を診たいと思い、総合診療医を目指しました。千葉県出身ですが、学生時代に北海道を旅行してから北海道で働くことが夢だったため、北海道の中でも「地域医療」がより学べるところとして、道立羽幌病院を選びました。

実際にこの地で働き、診る病気の範囲が広く、さらに家庭の背景、社会的状況なども併せて、個人に合った治療を組み立てていかなければならない点が地域における総合診療に求められるスキルだと感じました。離島診療支援にも行きましたが、羽幌病院よりもさらに検査機器なども限られ、身体所見やバイタルサイン、病歴の聴取から、病態を考えなければならないこともあり、厳しい環境でしたがたくさんの事を学ぶことができました。複雑な事例の患者さんもありましたが、患者さんの生物学的な面、心理学的な面、社会的な面を包括的にとらえることで問題の解決につながる経験をし、臨床技術だけではなく、理論を学び臨床に役立てる経験もできました。

羽幌病院では、普段は私の考えを尊重し、問題が無ければ自由にやっていいという教育で、何か課題に直面すれば先輩医師が助けてくれます。私にとっては、とてもよい教育環境です。日々新しい学びがあり、飽きることはありません。

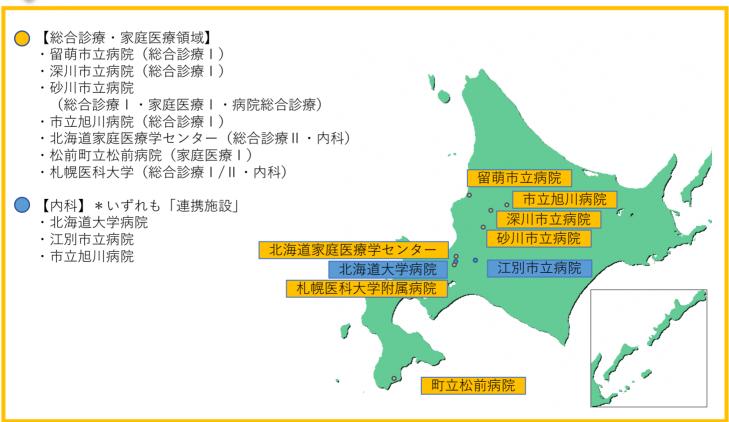
業務以外ですが、北海道を満喫することができました。休日には全道各地の観光に出かける時間もあり、北海道のまだまだ知らない魅力も体感することができました。

総合診療に興味のある研修医や医学生の方には、実際に地域における総合診療の実際を見て、現場を知ってもらえるとイメージが湧くと思いますので、ぜひ見学に来られると良いと思います。 すでに医師となり経験のある先生でも、また違った経験が得られると思います。



他医療機関が基幹施設のプログラムの連携施設としても専攻医を受け入れています 希望される場合は、各基幹施設に御相談ください

(2023年4月現在)



# 応募に際して



	応募資格	期間	人数
総合診療	専攻を開始することを希望する年の3月末時点までに	3 年間	4 名/年
総合診療 +新・家庭医療	<u>初期臨床研修</u> を修了見込み または 修了済みであるもの	4 年間	3名/年
新・家庭医療	2017年3月までに初期臨床研修を修了済みであるもの	3年間*	3名/年
病院総合診療	・専攻を開始することを希望する年の3月末時点までに 新専門医を取得見込み または 修了済みであるもの ・旧制度の専門医・日本病院総合診療医学会認定医 日本プライマリ・ケア連合学会の認定医・専門医	1年間 ~ 3年間	2名/年

\*総合診療専門研修と並行して新・家庭医療専門研修を希望した方の数に応じて定員数が変動します

応募方法:北海道立羽幌病院に下記資料を簡易書留で送付ください

- ①専門研修プログラム応募申請書
- ②履歴書
- ③医師免許証(コピー)
- ④臨床研修修了登録証(コピー)または修了見込証明書(原本)

(①は道立羽幌病院ホームページよりダウンロードしてください)

選考方法:北海道立羽幌病院または道立病院局(札幌市)において面接

待遇

(北海道立羽幌病院勤務の場合)

身分:北海道職員

給与:「北海道病院事業職員の給与の種類及び基準に関する条例」等に基づき支給

医師3年目:年収約1,500万円

\*道立羽幌病院勤務中は羽幌町医師研究資金制度もあります 研究資金100万円~(経験年次により異なります)

就業支度金(初年度限りただし2年連続で勤務する場合のみ)100万円

医師5年目以下	羽幌病院での	   羽幌病院勤務1年のみ	
の場合	1年目	2年目	
研究資金	150万円	150万円	100万円
就業支度金	100万円	-	-

休日: 土日・祝日(当番の場合あり)、夏季休暇(3日)、冬季職務専念義務免除(2日)

年次有給休暇(20日採用年は採用月により異なります)

当直:週1回(月4回程度)

学会:1年間に北海道外1回・北海道内1回参加可能です

(連携施設勤務の場合)

連携施設の規定によります。

勤務期間が短期間の場合、北海道職員として派遣となる場合があります



シマエナガ

# 外来診療を中心に救急対応から病棟・在宅も

#### <基幹臨床研修病院>

札幌医科大学附属病院、旭川医科大学病院、金沢医科大学病院、旭川赤十字病院市立旭川病院、砂川市立病院、江別市立病院、留萌市立病院

#### 初期研修医の地域医療研修の週間予定表

\*予定は1例です。同時期に研修する研修医の数などで変更します。

	月	火	水	木	金
朝	レクチャー	レクチャー	ネット学習会	ネット学習会	レクチャー
午前	総合診療外来	総合診療外来	総合診療外来	総合診療外来	
午後	総合診療外来	特養回診	予防接種 多職種カンファ	訪問診療	当直明け 自由
夜				宿直	

#### 研修された研修医の声

\*研修後に書いていただいた感想から抜粋しています。

今回の地域研修では、主に一般外来と主治医としての病棟業務を担当させていただきました。一般外来では、生活習慣病で定期通院されている方から、初診の諸症状(腹痛・嘔気・食思不振など)まで様々な症例に出会うことが出来ました。上級医の先生と相談しながら検査を進め、必要があれば入院として自分が主治医で退院まで診る、という「最初から最後まで自分で診る」ことを地域研修に来て初めて経験することが出来ました。周囲に大きな病院がないため、軽症は勿論のこと中等度~重症な方まで救急搬送されてきて、よい緊張感を持ちながら診療を行うことができました。高度病院へ転院搬送になる症例も多く、判断に悩む場面もありましたが上級医の先生に助けられながら何とか無事1ヶ月終えることが出来ました。

病院外での研修では、訪問診療や特別養護老人ホームへの回診、乳児健診等を経験させていただきました。羽幌町内だけではなく、隣の苫前町まで上級医の先生・看護師さん・事務員の方と伺いました。数世帯だけの地域への回診もあり、地元住民の方々はお互いをよく知っている関係で、助け合いながら生活しているのだろうなと感じました。また、羽幌町の特別養護老人ホームでは広くてとても綺麗な施設があり、入居者の方は快適な生活が送れているようでした。特別養護老人ホームに対してやや暗いイメージを持ってしまっていた自分にとってはとても印象的でした。

1ヶ月の研修の間、総じて感じたことは「患者さんとの距離が近い」「多職種間の連携が強い」といったことでした。患者さんとの距離の近さは勿論物理的ではなく、関係性でという意味ですが、色々な職種の方がその患者さんについて(職業・家庭環境・趣味・人柄など)を知っており、それがより良い医療提供につながることを学びました。その誘因にもなっていると思いますが、多職種間の連携が強いことも地域に根ざした病院として強みであると感じました。人数が多くないからこそ助け合わなくてはいけない場面が多く、皆がその意識を持っているからこそなし得る連携の強さであったと思います。

今回私は秋と冬との変わり目である11月に地域研修をさせていただきました。例年であると11月後半には積雪が観られるようですが、今年は遅れていたようで最終日に初めて積雪予報となりました(例年の同時期と比較すると10年に1度の大雪予報であったようです)。自動車は持っていきませんでしたが、私の研修中は積雪がなかったため徒歩でも快適に羽幌町内を散策することが出来ました。居酒屋やカフェ、パン屋さんなど自分が想像していたよりも様々なお店があることに驚き、夕方になると日本海側の夕日がとても綺麗で楽しかったです。名物である甘エビのベストシーズンではなかったですが、先生に連れて行っていただいたお食事はやはり海鮮が美味しくて幸せでした。

病院内外での研修は勿論のこと、プライベートでも毎日楽しく過ごせる町で非常に充実した1ヶ月となりました。また是非機会があれば、仕事としても観光としても羽幌町に戻ってきたいと思います。1ヶ月大変お世話になりました、ありがとうございました。





# 院内多職種協働や外来診療を学びます

- ★医学部5~6年の地域医療実習(札幌医科大学・旭川医科大学などのカリキュラム) 病院内の多職種による連携した医療を2週間研修します
- ★医学生の早期体験実習など(札幌医科大学・旭川医科大学などのカリキュラム) 大学により決められたカリキュラムの研修を行います
- ★そのほかの医学生の実習(自主的なものなど) 学年や実習内容の希望に応じて対応します

#### 医学部5~6年の地域医療実習(例:旭川医科大学医学部5年のカリキュラム)

		月	火	水	木	金
1週目	朝		レクチャー	ネット学習会	ネット学習会	レクチャー
	午前	移動	内科予約外来	放射線科/栄養科	予約外外来	外来問診実習
	午後	院内案内	特養回診	多職種カンファ	身体所見	訪問診療
2週目	朝	レクチャー	レクチャー	ネット学習会	ネット学習会	レクチャー
	午前	検査科/薬局	外来問診実習	内視鏡検査	カルテ付添実習	小児科外来
	午後	透析室	リハビリ	予防接種	町内観光	移動

#### 研修された学生さんの声

「ここはただの田舎の病院ではなく、かっこいい田舎のかっこいい病院である」

今回、旭川医科大学の実習の中で道立羽幌病院を選択し、2週間実習させていただきました。羽幌には少し縁があり、来たことがありかつ知り合いがおり、地域に関しては元から良いイメージを持っていました。しかし病院に関しては初めて伺ったので、何のイメージもないところからのスタートでした。これまでの実習でも色々な病院を回ってきたのですが、地域・病院の規模を比べると、こちらの病院はダントツで小規模となります。いわゆる"地方の病院"に対する不安が正直あったのですが、2週間の実習を通し、良い意味で裏切られることとなりました。

ここではとても良かったことを2つ紹介させていただきます。1つ目は色々な職種のお話を聞けたことです。実習のプログラム上、数日に分けて薬剤師、栄養士、看護師、放射線技師など様々な職種の場所に行くことがありました。薬剤師さんからは、過去に起こったインシデントについて、麻薬について、ヒューマンエラーを少しでも減らす工夫についてなど、その職種ごとに学びがありました。その実習プログラムが学生に必要だと思ってくれた先生がいること、そしてその先生がいれば変えることが出来るという小規模ならではの進化出来る力を感じました。2つ目は朝に30分の勉強会があったことです。実習が始まる前の懸念の大部分であった、知識のアップデートとなる刺激はあるのかと言う部分を見事に払拭して貰いました。Zoomが流行っている今だからこそ、色々な施設・病院をつなぎ症例報告などを毎朝学ぶことが出来るのはとても大きいことでした。

また実習以外では、美味しいご飯を食べたり、海と山が見える景色に癒やされたりと"田舎の病院"というイメージが、見事に"かっこいい田舎のかっこいい病院"へと変わりました。







# 地域センター病院として整備されています

: (常勤総合診療医による診療) 内科、外科、整形外科、小児科 診療科

(出張医による診療) 整形外科、耳鼻咽喉科、眼科、産婦人科、皮膚科、泌尿器科

精神科、リハビリテーション科

:120床(稼働病床45床:一般病床30床・地域包括ケア病床15床) 診療状況:1日平均患者数(令和4年度):外来 139.5人、入院 23.7人

救急受入状況(令和4年度):救急車 346人、休日·時間外患者総数 851人

平日時間外患者数平均 1.2人/日

診療圏域:4町1村(留萌中部:苫前町、羽幌町、初山別村 留萌北部:遠別町、天塩町)

圏域人口 15,889人(令和4年1月1日住民基本台帳) 高齢化率 41.2%









正面玄関

外来待合室

中央処置室

リハビリ室









救急処置室

救急外来診察室

ヘリポート

透析室









医局 (個人机)

医局

病棟 (デイルーム)

病棟











CT (80列)

MRI (1.5テスラ)

上下部内視鏡(富士フイルム)

骨塩定量検査装置

医師公宅は、平成17年に現在の病院と同時期に建設されたアパートがあります(3DK/バス・トイレつき)

# 夕陽の美しい日本海側は食も自然も豊かです



羽幌町ホームページより



羽幌町マスコット オロ坊

みなさんが来るのを 待ってるよ!

羽幌町は、北海道の日本海側の北部に位置しています。 日本海に沈む夕陽は絶景で、天気が良いと利尻島も望めます。 世界有数の海鳥の繁殖地である天売島と、緑豊かな焼尻島の 2つの離島を有しており、国定公園に指定されています。









日本有数の漁獲量である甘エビをはじめとした海産物、 高級レストランに食材として提供されるサフォークと よばれる焼尻めん羊などが特産としてあります。 特産物を活かした、海鮮丼や寿司などのグルメもあります。













羽幌町の南の苫前町(車で7分)は、農産物が豊富な町で米やメロンなどが名産です。 さらに南には小平町(車で25分)があり、かつてニシンで繁栄し、現在はタコ漁が知られています。 羽幌町の北の初山別村(車で20分)は、日本最北の天文台があり美しい星空を見ることができます。



大正時代に起きた熊による事件を 再現した現場(苫前町三溪)



海に立つ金比羅神社の鳥居 インスタ映えスポットです (初山別村)



明治時代の鰊番屋が保存されており、 見学ができます (小平町鬼鹿)

